

千枚田で米を作る ということ

田中 喜義

聞き手・光あゆか 森下えりか（石川県立門前高等学校1年）

千枚田の絶景

白米の番人

名前は田中^{きよし}喜義。昭和16年7月31日。こないだ72歳になった。白米町に生まれてここに育った。家族は今は2人。子どもはおるけど、こっちに居らんからね。孫は2人おる。収穫の時は人手がいるから、稲刈りの手伝いしたり。今はひとりで米作りをやっとる。この農業ちゅうがんはね、案外楽しいよ。ものが成長していくだろ。そういうが見とるからね。ものを育てる楽しみあるげわいや。

昔、両親はあんまり百姓しなんだ。わしがやるまで近所の人に頼んで米作りやとてんわ。兄弟は11人兄弟でわしは2番目。他の10人は、子どもの時は手伝いしたけど今はしとらん。子どもの頃の夢なんてなんもなかった。わしらの若い時は、もう職業の選択肢っちゃ、だいたい決まっとった。わしは勉強嫌いやったさかいに高校でなんだ。

農業と共に

中学校すんだなり、まず親にやれっちゅわれて炭焼きしたげん。わしやる前までは炭は結構いい収入になっただげん。わしや中学校すんで始めたら、炭があんまり売れんくなっせん。値段当然下がるやろ。あんなんやとつたら将来性ないなと思って辞めてん。

次は、ここ（田中さん家の隣）に採石場があっせん。そこへ仕事に行くようになって。昔な、今はコンクリのブロックになっせんけど、昔は石積みの工事とかしたわけや。その原石を掘りだいてん。山を崩して、石を細工して、石積みができるようにするげ。これは、3年ほどやったかな。最初は見習いやわな。3年やったら、職人になった。職人も3年くらいや。石職人に仕事に行っせん会社や、採石業の他に土建業始めた。本業は運送業やっせんけど、その採石業もやとつせん。そこへ行って、職人として働いとつせんけど、採石

を辞めて、土木の仕事するようになった。まだあの時 20 歳くらいやったな。現場監督として、29 歳までやとった。その間も農業はやった。農業は昔からずっとやとるからね。ここは絶対農業だけじゃ生活できないんだから。なんか兼業せんと。

それからは郵便局。自分の希望に変わったちゅうよりも、時代の流れで変わらざるを得なかった。なぜ言うたら、29 歳くらいになったら、土建業はみんな仕事が少のなってきた。現場監督ってやっぱ仕事辛いやろ。自分で一所懸命仕事せにや、駄目な時代になった。んで、休みがないげな。今は日曜日休みやけど、わしらの時代や盆と正月しか休みがなかった。特に、現場の責任持とるから。田んぼは仕事さぼって来てせーちゅうわけや。毎日出てこいゆーわけや。それで、現場監督を断つたんやけどな。郵便局っちゃ、昔は公務員やったから休みあるわな。郵便局は 59 歳までやって。入った時は 29 歳やって、ちょうど 30 年。わしに合わん仕事やったし、郵便局の仕事は嫌いやった。やっぱ、こういう所に育てばな、あんたらちよりも忍耐力あるげ。郵便局の場合は、好きな時に休まれんけど、1 週間にいつぱい休みあるから。そんな時農業やった。

欠かせない工夫

千枚田ちゅうのは兼業じゃないと出来んげん。こういう山間の集落ちゅうのは、お米を作って、冬になったら炭を作ったり山の木を切ったり。今、山も木材もお金にならん。今は住宅地になってもうたけど、輪島門前寄り・穴水寄りの水田地帯の人は、米だけ作とったわけや。町野とか柳田らへんは、川があって流域に水田があるもんで、そういうところは水田だけ作とったわけや。専業でやとる人ちゅうのは、ものすごく面積を耕作しとるわけや。それ以外の人はみんな兼業や。兼業じゃないとやってけないげん。農業だけの収入じゃ生活出来んもん。一軒のうちで 40 a か 50 a 作るが限界ねん。40 a とは大きい田んぼ 4 枚ほど。(1 a = 100㎡) 米作るだけで生活つくられるほど作られんげ。昔の田んぼはこれよりちいさかったわ。中学すんだなりは 300 枚ほど作とったからな。今は 100 枚ほど。仕事と農業の両立は大変やから、機械入れるがに田んぼ大きくした。

お殿様の命令

千枚田は江戸時代からある。江戸時代のお殿様は、ものすごくお米作るの好きやったわけや。本当はここは米作るのに適さん場所ねん。水も無かつたし、地元の人らは米を作りがらんかったわけや。米作つたてな、みんな納め米に取られるもの。百姓のもんや作りがらんわい。平野部は昔

から米作とった。そういうところの人はしょうがないさけ作るげろうけど。わざわざ納め米に取られるのに苦労して作る必要はないわけや。明治維新になったら、殿様の時代やなくなって、作とる人のもんになったわけや。自分らちのになつたらやる気あるわい。

水は山の向こうから来る。この山の向こうに谷あるげん。そっから引いとるげん。ここもともと飲料水しかない場所やってんけど、加賀のお殿様や田んぼ作らせるがに用水も作つた。

名付け親は不明

なんで千枚田と呼ばれるかは呼んだ人に聞かなわからんわ。わしらとこは、誰も千枚田ってゆわんげわ。千枚田の中でも、「ジュッソクガリ」とか「フリヤ」とかいろいろ地名がある。千枚田は誰かが考えてん。

自然の力で

千枚田をひとつの田んぼにしなかつたのはね、地形的に無理やし。地すべりっちゃわかるかな。地面が自然に移動するわけや。ここは、棚田を大きくしても 3 年ほどすると亀裂が入って、基盤が変動してだめねん。別に小さくしたくなくても、自動的に亀裂がはいって段差ができる。水は水平にしな保てんげわ。そうすりゃ、無理やり自然に逆らって大きくするよりも、自然に逆らわんと亀裂の入ったとこで段にしたほうが、労力的に楽やったもんで、効率がよかつたわけや。それでこんながなってもうてんわね。今はこんであんまり動かなくなったけど、10 年ほど前までは、毎年亀裂入とった。やし、最初にやる仕事は亀裂を塞ぐことやってん。亀裂が入つとると、崩れるからね。今、地すべりの防止工事っちゃあやって、1 cm くらいしか下がらなかつた。1 cm くらいなら毎年水入れては水田にしとるや、限界を保てる程度ねんてな。今も動いとるだけけど、1 cm ほどしか下がらん。今、崩れりゃ悪いもんで、動かなくなる工事(水抜き)をしとる。

品種の違い

20 年ほど前からやな、自分で作つた苗は、品種の表示が出来んげ。専門のとこで作つとるところから買わんとだめねん。自分で取つた米は品種が混じるさけ、品種の表示が出来んがや。品種はおもにコシヒカリやな。能登ひかりも 2 割ほど植えとる。わしは両方やとる。そうしんと、はざ干しする場合、都合悪いげな。両方作つとれば、早いやつを乾燥してからまたかけられる。コシヒカリと能登ひかりの違い



はざ。刈った稲をかけて乾燥させる

は収穫の時期だけや。能登ひかりや早い。

米作りの手順

3月の終わり頃くらいから始める。苗は農協へ注文して、5月の初めに取りに行く。昔はもみから作ったけど、苗買上げ。田植えは5月の初めやな。あらくりを機械と手と両方で、3月からやらんならんわけや。おもに機械。機械を無理やり入れるげ。わしゃまだ百姓始めた時分は、機械は本当に状況のいい水田しか入らんかってん。今、小さくても結構性能の良い機械やでてきとるわけや。ほやさけ、ちっさい田んぼに無理やり入れるげ。ただ、最初に起こす時や、やっぱり3分の1は手でやらんとだめや。いっぺんだけきちんと起こしかんと適当にやるとだめねんて。いっぺんきちんと起こして、水と土と混ぜんならんから、起こしてないところがあると、あとで都合悪いげ。あぜつける時も都合悪いし。田んぼにしきりあるわな。あそこへ土をつけとかんと、あんまり水が溜まらんわけや。その作業はだいたい4月の半ばすぎやな。まず起こさんならんわな。田起こして、次に、水を入れて、耕運機で無理やり打つわけや。無理やりりっちゅーの意味は、打たんともできる。それでも手でやるよりいいがになるわいや。ここの土は粘り気がある土なげ。なかなか水と土とな

かなかうまく混ざらんげ。そのあとはあぜつけるげ。それしたら、今度はもう1回田んぼをならさんだめねん。そして田植えや。稲刈りは9月やね。早いものは9月の初めには刈れる。

穂の色はすぐつかんわいや。この穂が出揃うわな、それから35日つてのが目安ねん。稲刈りも機械と手と両方や。千枚田の細かいとこ作っとる人は全部手やわ。稲刈りは機械で出来んわ。小さい稲刈る機械もあるけど、あれに刈ったらよけ暇かかるわ。手で刈つとるとこは乾燥機に入れられんげ。はざ干しせんとだめや。はざ干しの期間はだいたい2週間やな。雨晴れてから3日くらいおかんとだめやわ。わしの場合、はざ干しと乾燥機と両方する。乾燥機の場合、急激に乾燥すると味がおちるげ。大量に作っとるもんは、限界の時間でやるわけや。そうしな処理出来んから。わしら少ないからゆっくりやるよ。

今日(10月5日)の午後、田んぼを耕しに行こうと思っとる。今、耕しとくと、春に楽なげ。わしらんとこ状況悪いさけな、春になると機械が進んで入らんくるところができてくりん。ここの山間地でしょう。1枚の田んぼでも、進むとこに進まないとこあるげ。いろいろ何でも工夫せなできんげわい。人生も一緒やわい。生きるためにはいろいろ工夫せんと。ただそれできんだけで恨んどつてもだめやわ。



(上) 耕運機。田んぼを耕すための機械 (下) 後ろはもみすり機。もみからもみ殻を取って玄米にするための機械。手前は米選機。もみすりをした後の玄米からごみを取って、良質な玄米を選別するための機械

悩みの種

道具使うから困っとりん。収入を通りこしとるげ。百姓なんてやらんほうがよっぽどいい。退職金で買うたけどな、高いものは160万ほどすりん。ガソリン代や肥料代なんて微々たるもんや。本当に儲けたかったら、自分で全部手でやればいだけ。体いやがるけど、肥料代しか出ていかんさけ損失が少ないわな。大きい機械や小さい機械、色々あるげ。機械一台買うお金ありゃ、10年ぐらのお米こうて食べられるわ。近頃こういう小規模なところに使う農器具ちゅうがを生産せんがになっとるげん。売れんから。もう5・6年すると、小さい機械そのものが回ってこんなるね。

百姓は趣味の段階を超えとるげ。もう百姓としては成り立たんわな。採算が合わん。機械、何種類あるかな？ 結構あるよ。くわ・鎌・草刈り機・耕運機・田植え機。ほんとの千枚田の小さいところは田植え機入らん。脱穀機ちゅうのいるな。それから、もみすり機・精米機かな。機械は10年くらいみんな使っとるやろ。つぶれるまで使う。いつ痛むかわかんから、予備に使うがんに2台ある機械もある。千枚田んところに機械を無理して使うからよけ痛むげ。もともと機械の入らんようなとこ無理して入れるだろ。そうすつと痛みやす

いげ。機械の手入れ…ちゅうたつて、難しい質問や。他の機械と一緒にやわいや。油をさしたり、オイルを点検したり。千枚田やからって特別変わった手入れすることはほとんどないけど。

千枚田で楽しむ

全国棚田サミットちゅうが、今でも全国で持ち回りでやっとる。それが平成13年度に輪島であつたげ。その時にイベントとして、結婚式を考えてん。結婚式と一緒に稲刈りもするげ。結婚式と稲刈りは1日で終わりんわ。稲刈りのボランティアは今年600人程来たな。これは20年ほど前からやっとる。県外の人も留学生もおるよ。

あぜの万燈(あかり)は人気あるわ。プラスチックの箱の入れ物にろうを入れて約3時間ほどつくようになっとる。それをずっとあぜに並べる。あれは好評やわ。あぜの万燈には、地元の人がやる食べもん屋でも出したり。名舟の御陣乗太鼓も来るげ。あぜのあかりには去年は78,000人程来たんじゃねーかな。それから、LED電気のやつ(あぜのきらめき)。あれ、最初にやったんは国や。2回目からは石川県が。あれもものすごい人気あるわ。あぜのきらめきは今年(2013年)で3年目やな。あぜの万燈は1年早いげ。

耕作を愛する会

千枚田の棚田はみんな管理しとる。個人では4人でやっとるでしょ。JAおおぞら、酒屋さん、市役所もやっとる。それから、愛耕会。愛耕会って、オーナーの世話する人やね。わしは入つとらん。わしゃ個人でやつとるげん。白米町はわしが小学生の時(50年前)は、南志見村いうたんや。昔の南志見村の人達が、千枚田作る人居らんかったもんで、南志見村でなんとかしようってことになつてん。愛耕会は千枚田が作らんかったところを耕作する。水田を作る時、米を作る時に集まるんよ。買い物しとるだろうけど、千枚田を作るのが目的で愛耕会結成しとるさけ。千枚田ちゅうがんは、普通の観光地と違うわけや。絶えず人の手を加えてお米を作らんと見れん景色やげん。米作らないと草が生えて、普通の草わらの丘になるげんね。千枚田の自慢は美しいところや。千枚田は綺麗な場所やさかい残つてん。

農業の敵

今年は雨で稲がちょっと倒れてしまつてん。今年天候が異常でしょ？ ダーツと雨降つたさかい倒れてん。田んぼも崩れたもん。収穫に影響あつた人もおつたけど、わしのところは崩れたけどあんま影響はなかつた。えらい目におおとる場



(上) 2013年10月19日 あぜの万燈（あかり） (下) 2013年11月9日 あぜのきらめき

所もあるけどな。普通の天候が一番いいげ。雨降ると、土砂崩れとか起きるわけや。それが怖いげん。崩れた時の対処法はなんもないわ。自然に勝てんわい。崩れても収穫になんも影響はなかった。稲が倒れるとちょっと質は下がったり、次の年作時の耕作に影響ある。崩れたまま置いとくと水が入られんもん。

現実と向き合っ

後継ぎちゃ…おらんね。今やとる人がどの程度やってくるかわね。若い人やなかなか入ってくれんげ。百姓しとつても、自分の子どもに手伝いさせんちゅうな時代やもん。この先どうするか考えん。考えたって、どうこうできる力ないもん。自分の生活やとこさしとれん。考えたってむなし話やわね。かつていいことというのは簡単やけど、実際やるとなりややっば簡単なもんじゃないげ。百姓の仕事は重労働やからな、体はいつもきついわ。いつまで健康でおれるかわからんけど、体がゆうこときく間はできるだけ作る。今の若い人たちは我慢することを嫌がるけど、やっば我慢が大事ねん。人生長いんだから、5年や10年苦しくてても我慢して待つ。待っても結果出ん場合もあるけど。それが生きてくための力になるだろな。悲観ばかりしとつたら、もう明日嫌なるわね。いいことあるだろうって信じるしかないわな。夢を持つちゅうことが大事やと思う。

[取材日：2013年8月6日・10月5日]

PROFILE

田中 喜義 たなか きよし

昭和16年7月31日・72歳
白米千枚田景勝保存会長（農業）

中学卒業と同時に白米町で農業につく。転職を何度か繰り返すが、農業は兼業としてずっと行ってきた。30年間勤めていた郵便局を退職し、千枚田景勝保存会長として現在に至る。千枚田の耕作については56年。内、30年は区長保存会長として活動している。



● 取材を終えての感想 ●

田中さんに取材するにあたって、不安や緊張もあったけど、それよりも、田中さんはどんな方なのだろう、どんな話を聞かせてくださるのだろうという期待の方が大きかったです。田中さんは、千枚田での農業と関わりながら色々な体験をし、たくさんの思いを持っている方でした。

私は、千枚田がなぜ作られたかということ深く考えたことがありませんでした。千枚田や奥能登の棚田は私にとっては、ずっとその場所にある当たり前風景だったからです。けれども、私が当たり前だと思っていたその風景を作るために、何十年も苦勞している人がいるということに気がつき、これは決して忘れてはならないことなのだと感じました。

この「聞き書き」研修は私にとってとても貴重な経験でした。田中さんの話を聞かせていただいて本当によかったです。私は今、この美しい千枚田の風景を守り続けてくださった方々や、奥能登の自然に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

(光あゆか 写真：右)

私は、今回初めて「聞き書き」をしました。はじめは、名人の田中さんにちゃんとインタビューできるのか、まとまったレポートになるか心配でした。でも、田中さんがすごく優しい方だったので、スムーズにインタビューすることができて本当によかったです。田中さんから千枚田でお米を作る大変さや機械などをほとんど見せていただき、田中さんの千枚田の仕事を行っているの幸せや嬉しさが私にも伝わってきました。

インタビューを終え、ICレコーダーの聞き取りをしていると周りの音や方言で聞きにくい部分がいくつかありました。何回も聞き直して書き終えた文章を見ると、ものすごく達成感がありました。今回の研修を通して、他校の生徒たちとも交流できたことが嬉しかったです。そして何より、田中

さんにインタビューして、改めて能登の素晴らしさ、人の温かさを知ることができました。これからも千枚田、そして能登の存在を誇りに思いたいです。

(森下えりか 写真：左)